

国の基準に基づき、概ね40年程度の収支、人口等の経営環境の見通しを踏まえて、事業の中期計画である「魚津市水道ビジョン」を改定

魚津市水道事業 新水道ビジョン（計画期間：令和4年度～令和13年度）策定

＜基本目標＞ ※安全強靱持続は厚生労働省が掲げた取り組みの目指すべき方向性

安全 安心・安全な水道水の供給…家庭の蛇口から、いつでも水をおいしく飲める水道

基本方針：①水源保全、②水質リスク管理の強化、③施設の適切な維持管理

強靱 耐震化・災害対策の充実…自然災害等による被災を最小限にとどめ、被災しても、迅速に復旧できるしなやかな水道

基本方針：④水道施設の耐震化、⑤危機管理体制の強化

持続 水道サービスの持続…健全かつ安定的な事業運営がなされ、いつでも安全な水道水を安定的に供給できる水道

基本方針：⑥安定した事業運営、⑦水道サービスの充実、⑧人員確保・技術力の継承、⑨環境保全への取り組み

＜取り組む具体的な施策＞ ※10年以内にに取り組むべき重要な課題

- **【新規】** 横枕浄水場の更新（改良、老朽化更新、管路耐震化、浸水対策） **安全強靱**
事業年度：令和5～12年度、事業費：約11.6億円 ⇒ 浄水場耐震化率100%を目指します
- **【継続】** 水道施設、特に基幹管路の耐震化 **強靱**
事業年度：令和4～10年度、事業費：約7.4億円 ⇒ 基幹管路耐震化率40%を目指します
- **【継続】** 計画的な漏水調査と早急な修繕による有収率の向上 **安全持続**
令和元年度実績：79.4%（※上水道事業のみ） ⇒ 令和13年度末85.1%を目指します
- **【新規】** 施設の更新基準（法定耐用年数）見直しによる事業費の平準化を検討 **持続**
更新実績を踏まえた実使用年数に基づく新たな更新基準の設定（管路の法定耐用年数：40年 → 60年）
- **【新規】** 施設更新時の規模適正化（ダウンサイジング）と統廃合を検討 **持続**
上水道と簡水の統合による施設数の削減
- **【継続】** 企業債充当割合の抑制、借り換えの検討 **持続** ※現状の企業債充当率は約8割
新たな企業債の活用
- **【新規】** 人件費削減のため、施設管理業務等の包括的委託を検討 **持続**
より一層のアウトソーシングの活用

魚津市水道事業 新水道ビジョン（概要版）

第1章 新水道ビジョン策定の目的

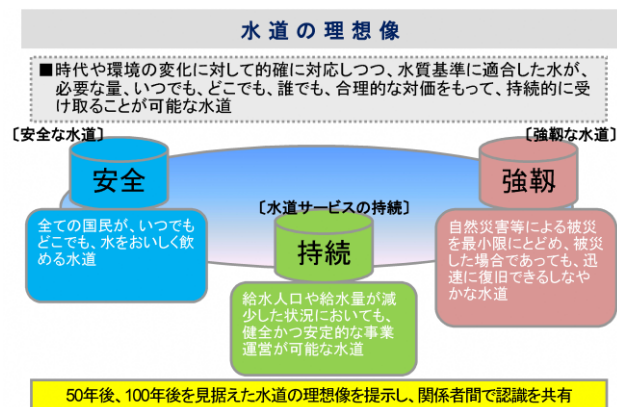
1.1 策定の目的（本編 P1-1）

- ・魚津市水道ビジョンは平成 24 年度策定 ⇒ 目標年度は平成 33 年度（令和 3 年度）
- ・厚生労働省は平成 25 年 3 月に新水道ビジョン策定
- ・社会構造の変化（人口減少等）や自然災害の頻発、外部環境の変化⇒新たな対応が必要

前回ビジョン策定から 10 年が経過するため見直しを行います。
（厚生労働省の新水道ビジョンに整合した内容で改訂）

【新水道ビジョンの構成】

- 第 1 章 新水道ビジョン策定の目的
- 第 2 章 水道事業の概要
- 第 3 章 現状分析と課題の抽出
- 第 4 章 将来の事業環境
- 第 5 章 水道の理想像と目標設定
- 第 6 章 推進する実現方策
- 第 7 章 フォローアップ



【参考】資料 平成 25 年 4 月 厚生労働省健康局水道課

1.2 計画の期間（本編 P1-2）

魚津市新水道ビジョンは、市政と一体化したまちづくりに協働するため、魚津市総合計画等の将来推計や施策と整合した内容とします。

表 1 上位計画との整合

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
魚津市 第5次総合計画	基本構想										
	基本計画（前期）					基本計画（後期）					
	第2期総合戦略					人口減少対策特化					
新水道ビジョン	策定	開始									目標
水道事業経営計画	策定				5箇年で見直し						

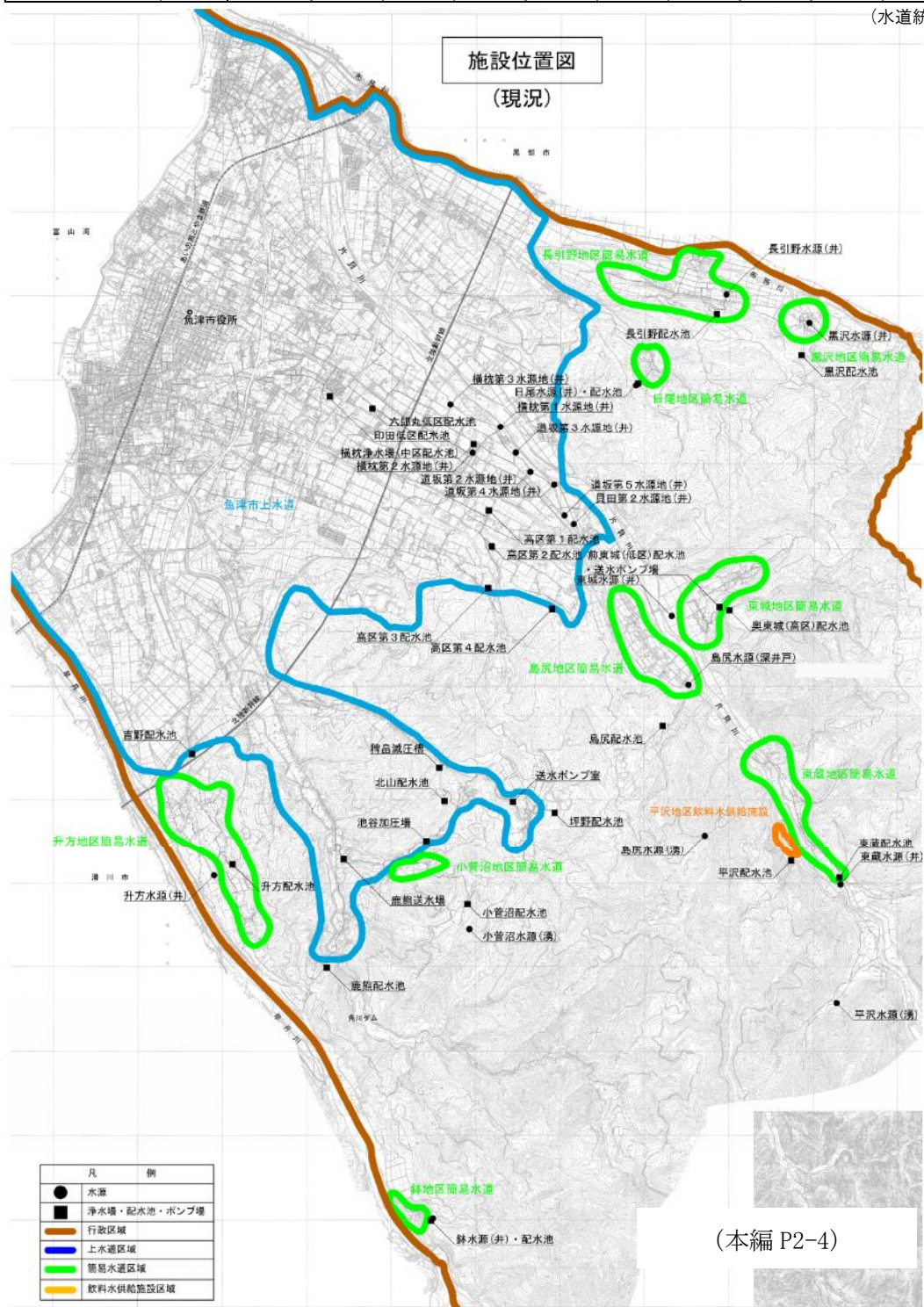
第2章 水道事業の概要（本編 P2-2）

新水道ビジョンは、魚津市内にある全水道事業（11 事業）を対象とします。

表 2 水道事業の概要

区 分	単位	魚津市 上水道	簡易水道									平沢飲料水 供給施設
			日尾	東城	黒沢	島尻	東蔵	小菅沼	鉢	升方	長引野	
創設年度	年度	S26	S30	S30	S30	S32	S32	S33	S41	S47	S48	S48
計画給水人口	人	42,900	102	350	150	520	270	130	105	480	415	80
計画給水量	m ³ /日	28,400	36	105	47	141	71	20	35	151	104	39
水源種別	—	深井戸	深井戸	深井戸	深井戸	湧水・深井戸	深井戸	湧水	深井戸	深井戸	深井戸	湧水
水源数	箇所	8	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1
浄水方法	—	消毒のみ	消毒のみ	消毒のみ	消毒のみ	消毒のみ	消毒のみ	消毒のみ	消毒のみ	消毒のみ	消毒のみ	消毒のみ
配水池	箇所数	箇所	11	1	2	1	1	1	1	1	1	1
	池数	池	28	2	4	2	3	2	2	2	3	2
	総容量	m ³	11,577	45	156	74	176	97	39	12	117	40
総管路延長	m	332,624	794	4,004	1,551	5,974	4,229	1,779	585	6,398	5,315	3,395

(水道統計調査R1より)



(本編 P2-4)

第3章 現状分析と課題の抽出 (本編 P3-54)

【課題の抽出方法】

- ①外部環境・・・人口減少、新技術の活用、環境保全への取組み
- ②内部環境・・・事業経営の継続、資金残高の確保、職員の確保
- ③事業の現状分析・・・人口・水量、水質、施設状況、耐震化、経営状況等
- ④市民アンケート・・・令和3年5月実施
- ⑤業務指標(PI)・・・現状分析診断システム 2021 を利用して他事業体と比較
- ⑥前回ビジョンからの継続課題

「安全」、
「強靱」、
「持続」の
判断とまとめ

表3 課題のまとめ

	現状の課題	安全	強靱	持続	補足内容	重要課題
外部環境	今後のさらなる人口減少 (→使用水量減少→給水収益減少)			●	有収水量減少に伴い給水収益が減少	
	水道普及率が低い			●		
	「ゼロカーボンシティ」の挑戦、CO2削減への取組み			●	電力費削減	
	ICT、IoT技術の活用			●	スマートメーター、施設点検等	
	SDGs (持続可能な開発目標) に向けた取組み	●		●	目標6(安全な水とトイレを世界中に) 目標11(住み続けられるまちづくりを)	
内部環境	施設更新費用として2.3億円/年間の投資額の見込み			●	7セクタマネジメントの検討結果(検討期間:40年間)	
	現行料金据え置きの場合: 収益的収支および資金残高はマイナスが発生			●	7セクタマネジメントの検討結果(検討期間:40年間)	
	ベテラン職員の退職や職員の異動 →水道に特化した職員の確保が困難			●		
施設 (構造物)	上水道水源:取水量超過(認可値超過)	●				
	横枕浄水場更新: 改良、老朽化更新、管路耐震化、浸水対策	●	●		上水道基幹施設:更新設計はR1~R2実施済み	○
	法定耐用年数超過: 機械電気設備(水源、横枕浄水場、送水ポンプ)	●				
	上水道印田低区配水池(休止中): 耐用年数超過、耐震性なし	●	●		取り壊し予定	
	配水池容量不足: 高区第3、高区第4、六郎丸低区、鉢配水池	●				
	浸水対策:上水道水源(7井/8井中)、横枕第1(自家発)	●	●			
	土砂災害対策:池谷加圧場、坪野送水ポンプ場、 東城送水ポンプ場、東城低区配水池	●	●		土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)に指定	
施設 (管路)	重要給水管の未設定	●	●		応急給水拠点・重要給水施設の設定	
耐震	水道施設の耐震化		●			○
	配水池耐震性:上水道65.8%、簡易水道0%→耐震詳細 診断未実施		●		高区第1(RC)と簡水の耐震詳細診断	
	管路耐震化率:上水道17.8%、簡易水道40.8%		●			
	基幹管路耐震化率:17.8%		●		限られた財源で基幹管路耐震化から着手	○
経営 状況	動力費・薬品費・修繕費が増加傾向			●	修繕費用が増加→計画的な漏水調査・布設替え 漏水対策(有収率の向上)で費用を抑制	
	営業費用に占める減価償却費の割合が大きい			●	施設の統廃合を検討、適切な資産の除却	
	企業債への依存度が高い			●	企業債利用の抑制、借換えの検討	○
市民 アンケート	【問3】水道のみ使用は回答のみ66%	●		●	水道普及率の低い要因	
	【問4,5】塩素臭・濁り(白)についての不満	●		●	塩素の必要性(水道法)・除去方法・水道水をおいしく 飲む方法について情報発信	
	【問6】水質検査計画・水質検査結果の存在を8割が知 らない			●	水質検査結果は市HPで公表済み→認知度が低い	
	【問7~9】災害時の飲料水確保(6割が未対策)、保存 方法		●		近年の災害実績における断水日数の公表・水の備蓄 方法等の情報提供	
	【問10 ~ 問14】断水への不安度が高い→災害への対策、災害 時の対応		●			
	水源汚染への不安	●			水源パトロール強化	
	消毒用薬品の安全性	●			水安全計画の策定	
	【問13】災害対策は水道料金があがっても取り組むべ き		●	●	耐震化計画の策定、耐震化(施設・管路)の推進 危機管理マニュアルの改訂、防災訓練の実施	
	要望 情報開示			●		
業務 指標	B301 配水量1m3当たり電力消費量			●	環境保全への取組み	
	B208 給水管の事故割合:高い	●		●		
	B110 漏水率:高い	●		●	漏水調査の実施	○
	B116 給水普及率:低い			●		
	B502 法定耐用年数超過設備率:高い	●				
	C205 水道業務平均経年数:低い			●		
ジ ョ ン の 継 続 か ら	給水管の更新(鉛管解消、耐震化)	●	●			
	応急給水拠点(給水施設、給水栓)の整備		●			
	HP、広報を活用した情報の提供、公開(おいしい水道水のPR)			●		
	施設管理台帳の整備	●		●		

第4章 将来の事業環境

4.1 外部環境（本編 P4-1）

将来人口・水量の予測を実施

■人口：行政区域内人口を「魚津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(令和3年度改訂版)」と整合

■水量：事業ごとの直近10カ年実績で用途別(家庭・営業・官公署等)に推計

魚津市水道事業全体	水道ビジョン 平成24年度	新水道ビジョン	
		令和4年度	令和13年度
計画給水人口（人）	40,389	35,627	33,730
計画水量（m3/日）	26,094	21,378	18,765

4.2 内部環境

①アセットマネジメント（本編 P4-4）

令和2年度に実施したアセットマネジメントの検討では、現行料金据置の場合、40年間の見通しで収益的収支および資金残高にマイナスが発生する見込みです。事業の持続のために、今回の水道ビジョンの事業計画が財政的に実現可能かどうか、財政収支の見通しを把握する必要があります。

②職員の確保（本編 P4-7）

「3.11 業務指標(PI)」類似事業体との比較より

■C205 水道業務平均勤続年数が少ない⇒熟練職員が少ない（事故等の突発的対応が困難）

事業体の特性として職員の異動や退職は避けられず、水道に特化した職員の確保が困難となります。

第5章 水道の理想像と目標設定

5.2 基本理念（本編 P5-1）

魚津市新水道ビジョン基本理念

おいしい水を絶やすことなく未来につなぐ

■魚津市水道ビジョン(平成24年度策定)の基本理念

「たゆることなくおいしい水がうるおい続けるまち」

⇒安全でおいしい水を絶やすことなく市民に供給していきたいという思い

■魚津市新水道ビジョンの基本理念

“水を絶やすことなく”という水道事業運営への信念のもと、これまでの基本理念を継続しながら、第5次魚津市総合計画の将来都市像を踏まえたものとなりました。

安全 基本目標1 安心・安全な水道水の供給

強靱 基本目標2 耐震化・災害対策の充実

持続 基本目標3 水道サービスの持続

第6章 推進する実現方策

(1) 実現方策（本編 P6-1～）

表3でまとめた課題について、「安全」、「強靱」、「持続」のそれぞれについて基本目標と基本方針を設定し、目標を達成するための実現方策をまとめました。

安全 基本目標1 安心・安全な水道水の供給		
基本方針1 水源の保全		
基本施策 1	水源パトロールの強化	
基本施策 2	水源の浸水対策	
基本施策 3	上水道水源の取水可能量調査	
基本方針2 水質リスク管理の強化		
基本施策 4	水安全計画の策定	
基本方針3 施設の適切な維持管理		
基本施策 5	機械電気設備の老朽化更新	
基本施策 6	漏水対策	①漏水調査
		②給水管更新
基本施策 7	水道施設台帳の整備	

強靱 基本目標2 耐震化・災害対策の充実		
基本方針4 水道施設の耐震化		
基本施策 8	構造物の耐震化	①横枕浄水場の更新(改良、老朽化更新、管路耐震化、浸水対策)
②耐震診断(配水池)		
③印田低区RC配水池(休止中)取壊し		
基本施策 9	管路の耐震化	
基本方針5 危機管理体制の強化		
基本施策 10	緊急時マニュアルの整備	
基本施策 11	防災対策	
持続 基本目標3 水道サービスの持続		
基本方針6 安定した事業運営		
基本施策 12	水道普及率・有収率の向上	
基本施策 13	施設の統廃合検討	①高区配水系統の施設再整備計画(基本計画)・規模適正化(ダウンサイジング)
②水道事業の統合		
基本施策 14	水道経営の定期評価(更新基準の見直し・企業債充当割合の抑制・包括的委託の検討)	
基本方針7 水道サービスの充実		
基本施策 15	納付環境の改善	
基本施策 16	情報発信	
基本方針8 人員確保・技術力の継承		
基本施策 17	ICT, IoT技術の活用	①ICT(i-Construction)の活用
②IoTの活用		
基本方針9 環境保全への取り組み		
基本施策 18	環境対策の調査・導入検討	①「ゼロカーボンシティ」への挑戦(CO2削減への取り組み)
②「うおづのうまい水」のパッケージ検討		
③SDGs(持続可能な開発目標)に向けた取り組み		
④再生可能エネルギーの導入検討		

(2) 事業年次計画（別紙 1、別紙 2 参照）（本編 P6-8～）

基本施策を実行するために必要な事業費として、令和 4～13 年度の 10 箇年で約 29 億円を見込んでいます。

■■主要事業の概要■■

・【新規】横枕浄水場更新事業 **安全強靱**

事業年度：令和 5～12 年度実施予定、事業費：約 11.6 億円

昭和 57 年度建設の横枕浄水場の更新・改良工事に併せて管路耐震化を行い、浄水場耐震化率 100%を目指します。

・【継続】水道管路緊急改善事業(基幹管路更新) **強靱**

事業年度：令和 4～10 年度実施予定、事業費：約 7.4 億円

上水道基幹管路の更新約 3.3km を行い、基幹管路の耐震化率 40%を目指します。財源の一部に国庫補助を活用します。

・【新規】高区再編・耐震化事業(上水道) **強靱**

事業年度：令和 4～13 年度実施予定、事業費：約 1.4 億円

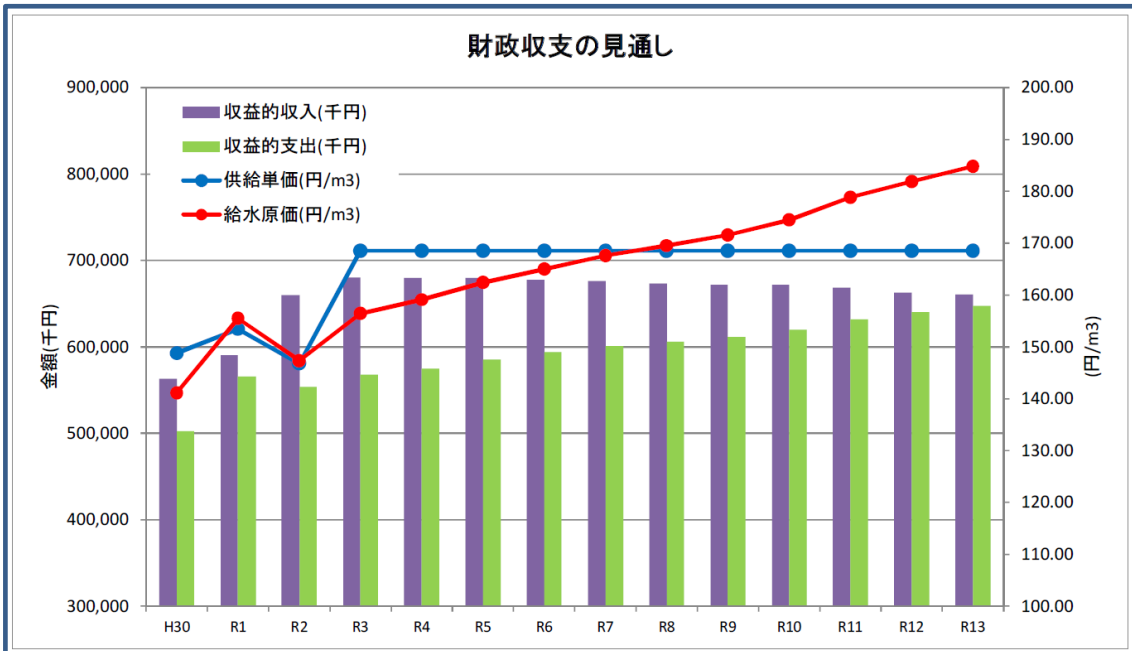
令和 8 年度までに、高区第 1～第 4 配水池の耐震診断を行い、耐震性能を照査。耐震診断完了後、高区再編計画を策定します。

・【継続】耐震化事業(簡易水道) **強靱**

事業年度：令和 7～13 年度実施予定、事業費：約 1.4 億円

耐震化の優先順位が高い升方・東蔵・長引野・東城について、配水池の耐震診断、基幹管路の耐震化を行います。

(3) 財政収支の見通し（別紙 3 参照）



財政収支の見通しを試算した結果、人口減少の影響による水需要の低下により収益的収入が減少傾向となる一方で、水道施設の老朽化に伴う修繕費の増加により収益的支出は増加傾向となる見込みです。さらに、令和 8 年度には給水原価が供給単価を上回ることから、収益的収支の悪化により、厳しい事業運営を迫られる見通しです。

今後の対応として、まずは現行料金を維持できるよう、より一層の経営改善に向けた取り組みを行います。

■■経営改善の取り組み■■

《経費節減》

- ・【継続】有収率の向上 **安全持続**
⇒計画的な漏水調査及び早急な修繕実施、適切なペースでの管路更新
- ・【新規】アセットマネジメントの充実 **持続**
⇒施設・設備の長寿命化等によるコストの縮減や投資の平準化
- ・【新規】施設・設備の廃止と統廃合の検討 **持続**
⇒ダウンサイジング等による施設規模適正化（施設数の削減等）
- ・【新規】施設・設備の合理化の検討 **持続**
⇒将来需要に応じた施設性能のスペックダウン（更新管の口径縮小等）
- ・【新規】民間の資金・ノウハウ等の活用 **持続**
⇒アウトソーシング、包括的委託等の導入等
- ・【継続】新たな企業債の活用 **持続**

《収入の確保》

- ・【継続】近隣水道事業者と広域化の取り組み **持続**
⇒業務の共同委託、薬品等の共同購入
- ・【新規】ICT と IoT 技術を活用した業務省力化の可能性 **持続**
⇒管路漏水検知器や水道スマートメーターの導入等
- ・【継続】未加入者への普及促進 **持続**
⇒市ホームページ等による水道水の安全性の情報発信
- ・【継続】未収金への対応の徹底 **持続**
- ・【継続】料金外収入の増収 **持続**
⇒うおづのうまい水販売促進、検針票や封筒への有料広告の導入

これらの取り組みを行い経営改善に努めながらも、近年では、原材料費や燃料費の高騰等の予測できない支出も多く、それらが事業経営や事業の進捗に大きな影響を与えていることから、健全な水道事業を持続していけるよう、社会情勢に合わせて適切な時期に料金改定の検討を行うことが必要です。

なお、本市では、令和4年度に総務省と地方公共団体金融機構の共同事業である「地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業」を活用し、事業の効率化・経営健全化等の観点から経営戦略の策定（見直し）に係る指導・助言をいただき、水道事業経営計画（経営戦略）の見直しを行う中で、より具体的な取り組みについて検討することとしており、将来にわたる健全な魚津市水道事業の持続と本ビジョンで掲げる目標の実現のために、より一層の経営改善に努めます。

第7章 フォローアップ

事業の進捗や効果が検証可能となるよう、PI(業務指標)をベースとした目標値を設定し、5年毎(令和8年度、令和13年度)に検証を行います。

【安全】 安心・安全な水道水の供給									
		業務指標(PI) 値							備考
		実績			H30参考(中央値)		目標値		
PI項目	評価項目	H28	H29	H30	類似団体	全国	R8	R13	
A301	水源の水質事故数 (件)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
B208	給水管の事故割合 (件/1000件当たり)	14.1	8.4	10.0	2.8	3.0	8.0	5.0	
B502	法定耐用年数超過設備率 (%)	80.0	75.0	75.0	34.1	43.1	50.0	0.0	上水道 浄水施設
	⇒(法定耐用年数を超えている機械・電気・計装設備などの合計数/機械・電気・計装設備などの合計数) × 100								

※実績は上水道事業のみ

【強靱】耐震化・災害対策の充実									
		業務指標(PI) 値							備考
		実績			H30参考(中央値)		目標値		
PI項目	評価項目	H28	H29	H30	類似団体	全国	R8	R13	
B602	浄水施設の耐震化率(%) ⇒(耐震対策の施された浄水施設能力/全浄水施設能力)×100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0	横枕浄水場
B604	配水池の耐震化率(%) ⇒(耐震対策の施された配水池有効容量/配水池等有効容量)×100	18.5	65.2	65.2	28.1	36.4	65.8	93.0※1	目標値は耐震化完了の場合
B606	基幹管路の耐震化率(%) ⇒(基幹管路のうち耐震管延長/基幹管路延長)×100	2.5	9.0	13.1	18.4	11.8	34.5	40.1	上水道

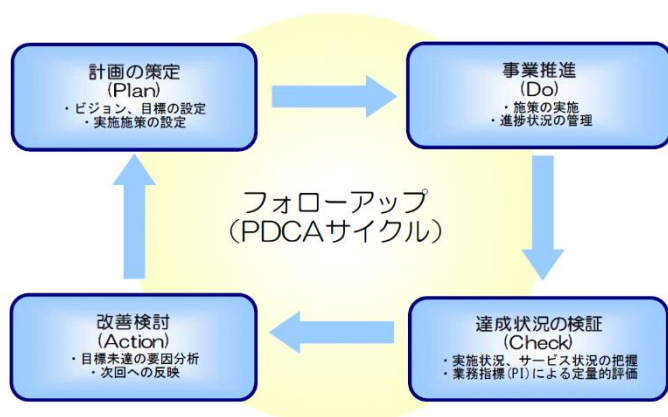
※実績は上水道事業のみ

※1 耐震診断結果により変動あり

【持続】水道サービスの持続									
		業務指標(PI) 値							備考
		実績			H30参考(中央値)		目標値		
PI項目	評価項目	H28	H29	H30	類似団体	全国	R8	R13	
B112	有収率 (％) ⇒(年間有収水量/年間配水量)×100	82.0	81.8	79.4	82.7	86.0	80.6	85.1	
C102	経常収支比率 (％) ⇒〔(営業収益＋営業外収益)/(営業費用＋営業外費用)〕×100	111.7	115.3	112.2	112.5	110.6	110.0	110.0	100.0%以上 が望ましい
C106	繰入金比率（資本的収入分）(％) ⇒資本勘定繰入金/資本的収入計×100	1.4	4.1	3.4	6.3	6.6	6.0	6.0	
C113	料金回収率 (％) ⇒供給単価/給水原価×100	106.5	109.7	108.3	107.4	103.5	103.0	103.0	100.0%以上 が望ましい

※実績は上水道事業のみ

※水道事業における業務指標(Performance Indicator)は、水道事業の効率を図るために活用できる規格の一種で、水道事業が行っている多方面にわたる業務を定量化し、厳密に適宜された算定式により評価を行うものです。業務指標(PI)は、水道事業ガイドライン JWWAQ100 で規定され、「《安全》安全で良質な水」、「《安定》安定した水の供給」、「《持続》健全な事業経営」の3つの目標で全119項目の番号に分類されています。



基本目標を達成するため、PDCAサイクルを活用して各施策の計画、事業の実施、達成状況の検証、事業・施策の改善検討を行い、事業運営のスパイラルアップを図ります。

事業年次計画

実績

予算

単位：千円(諸経費込み・税抜き)

事業番号	名称	整備内容		R4～R13 総事業費 (千円)	前期計画						後期計画					令和14年度 以降 2032以降
					令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025	令和8年度 2026	令和9年度 2027	令和10年度 2028	令和11年度 2029	令和12年度 2030	令和13年度 2031	
上水-	1 横枕第1水源	電気設備 建築 設計	老朽化更新(自家発含む) 電気室更新(老朽化更新・浸水対策) 建築・浸水対策・機電更新・測量・土質調査	10,000 10,000 14,400										10,000 10,000	45,000 15,000	
上水-	2 横枕浄水場更新 (横枕第2水源) R5～R12	土木	老朽化更新/浸水対策/耐震化	219,439			11,231	0	0	0	63,998	3,630	0	140,580		上層更新
		配管	老朽化更新/耐震化	403,238			12,309	0	19,943	61,391	62,612	85,251	145,639	16,093		
		建築	老朽化更新	59,444			0	59,444	0	0	0	0	0	0		
		機電	老朽化更新	470,800			133,540	82,995	82,995	81,510	15,950	54,670	19,140	0		
上水-	3 中央監視更新	監視設備		60,000		60,000										
上水-	4 低区印田配水池	土木/機電	取壊し	0												34,820
上水-	5 水道管路緊急改善	導水管	φ450 ΣL=630m	道4(道3付近～横枕)	193,241			138,029	55,212							
		導水管	φ400 ΣL=100m	横1・道3(横枕前)	32,375			32,375								
		導水管	φ400 ΣL=270m	道4(道2付近～道3付近)	72,428				72,428							
		導水管	φ300 ΣL=270m	道4(道4～道2付近)	56,943				56,943							
		導水管	φ250 ΣL=100m	道2(横枕前)	20,905			20,905								
		送水管	φ500 ΣL=170m	横枕～六郎丸低区	66,674		66,674									
		送水管	φ250 ΣL=1710m	横枕～高1	294,206					51,615	73,982	110,112	58,497			
		配水本管	φ500 ΣL=214m	低区	0	81,740										
上水-	6 高区系配水施設	設計	高区系施設再整備計画(基本計画)	8,000						8,000						
上水-	7 高区第1配水池 (RC V=1,008m3)	設計 設計 建築 機電	耐震診断(詳細)・劣化調査 建築・機電更新 電気室更新(耐震化) 老朽化更新(自家発含む)	6,860 15,000 25,000 48,000	※1 6,860								15,000	25,000 48,000	116,000	
上水-	8 高区第2配水池 (V=257+100m3)	設計	耐震診断(詳細)・劣化調査・地質調査	10,190				※2 10,190								
上水-	9 高区第3配水池 (V=35+100m3)	設計	耐震診断(詳細)・劣化調査・地質調査	9,680					※2 9,680							
上水-	10 高区第4配水池 (V=32+50m3)	設計	耐震診断(詳細)・劣化調査・地質調査	9,680					※2 9,680							
上水-	11 水源調査	設計	揚水試験	0												14,000
上水-	12 設備更新	電気設備 土木	道坂第3水源 老朽化更新 道坂第3水源 浸水対策(ビット嵩上げ)	0 0	21,800 1,000											
上水-	13 設備更新	電気設備 土木	道坂第2水源 老朽化更新 道坂第2水源 浸水対策(ビット嵩上げ)	23,000 1,000	23,000 1,000											
上水-	14 設備更新	電気設備 土木	貝田第2水源 老朽化更新 貝田第2水源 浸水対策(ビット嵩上げ)	23,000 1,000			23,000 1,000									
上水-	15 その他更新費用	設備 配管	老朽化更新 老朽化更新				0 15,000	25,000 25,000	15,000 15,000	15,000 15,000	22,000 25,000	25,000 25,000	25,000 25,000	25,000 25,000		
簡水-	1 升方配水池 (V=160m3)	設計	耐震診断(詳細)・劣化調査・地質調査	5,800				※1 5,800								
簡水-	2 升方管路	基幹管路 耐震化	φ75 ΣL=62m 送水管 DIP-GX φ150 ΣL=19m 配水管 HPPE φ100 ΣL=6m 配水管 HPPE	6,653 2,356 567				6,653 2,356 567								
簡水-	3 東蔵配水池 (V=97m3)	設計	耐震診断(詳細)・劣化調査・地質調査	5,590				※1 5,590								
簡水-	4 東蔵管路	基幹管路 耐震化	φ50 ΣL=105m 導水管 HPPE φ100 ΣL=21m 配水管 HPPE	4,857 1,982	28,600				4,857 1,982							
簡水-	5 長引野配水池 (V=73+44m3)	設計	耐震診断(詳細)・劣化調査・地質調査	9,680					※1 9,680							
簡水-	6 長引野管路	基幹管路 耐震化	φ75 ΣL=24m 送水管 HPPE φ50 ΣL=10m 送水管 HPPE φ150 ΣL=5m 配水管 HPPE φ100 ΣL=7m 配水管 HPPE φ75 ΣL=10m 配水管 HPPE	1,643 463 620 661 685						1,643 463 620 661 685						
簡水-	7 東蔵配水池 (V=73+86.4+7.4m3)	設計	耐震診断(詳細)・劣化調査・地質調査 (送水ポンプ井含む)	13,770						※1 13,770						
簡水-	8 東城管路	基幹管路 耐震化	φ50 ΣL=888m 導水管 HPPE φ50 ΣL=124m 送水管 HPPE φ100 ΣL=827m 配水管 HPPE φ75 ΣL=331m 配水管 HPPE φ50 ΣL=8m 配水管 HPPE	41,070 5,735 31,136 0 0							19,425	19,425	2,220 5,735 11,322	19,814	46,893 1,643 4,857	
簡水-	9 その他更新費用	配管		60,000		20,000	20,000	20,000								
共通-	1 水安全計画	設計	策定	6,000		6,000										
共通-	2 施設管理台帳		作成	2,000		2,000										

※1.耐震診断結果により補強設計・工事が追加になる可能性がある。

※2.高区系施設再整備計画(R7予定)で耐震診断結果を踏まえた整備計画を行う。

※3.漏水調査費用、管理台帳保守費用は収益的支出に計上

上水のみ事業費計①

簡水のみ事業費計②

共通事業費計③

①+②+③

【財源計画】

企業債(充当率80%)

国補助金(緊急改善：補助率1/3)

単費

計

84,800

27,200

21,140

133,140

258,700

22,200

64,634

345,534

274,900

63,800

68,689

407,389

252,400

61,500

63,122

377,022

174,800

17,200

43,709

235,709

206,400

24,700

51,662

282,762

217,500

36,700

54,314

308,514

199,200

19,500

49,773

268,473

187,400

0

46,804

234,204

204,300

0

51,050

255,350

130,300

0

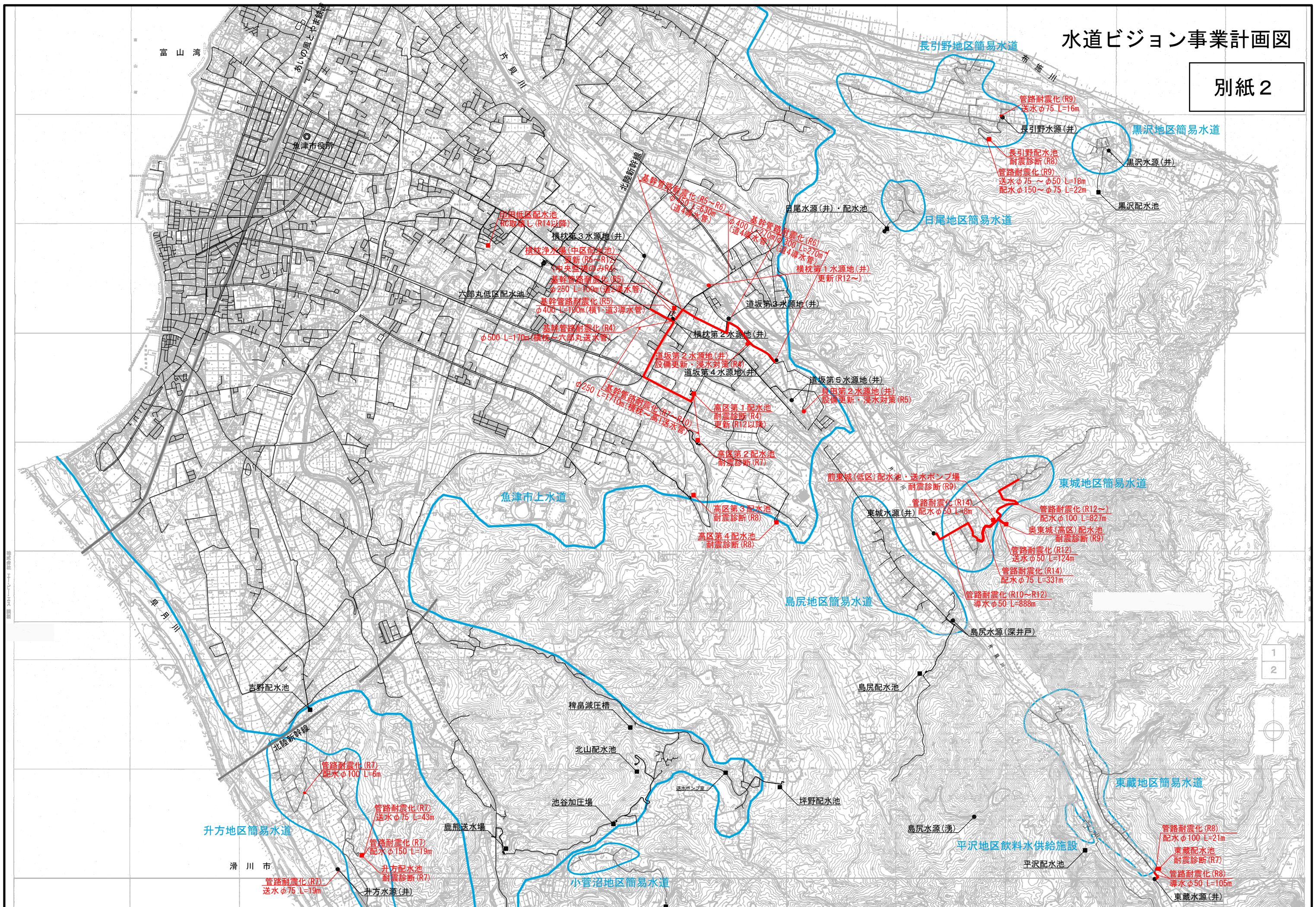
32,514

162,814

別紙 1

水道ビジョン事業計画図

別紙 2



				会計統合 料金改定	最新実績	当年度											(単位：千円)		
				2018 H30	2019 R1	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025	令和8年度 2026	令和9年度 2027	令和10年度 2028	令和11年度 2029	令和12年度 2030	令和13年度 2031		
業務量	年	間	有 収 水 量 (千 m3)		3, 377	3, 443	3, 551	3, 440	3, 429	3, 416	3, 405	3, 392	3, 382	3, 369	3, 359	3, 346	3, 335	3, 321	
収益的収支（税抜き）	収入	営業収益	給水収益(料金収入)		502, 469	528, 386	521, 309	579, 778	577, 924	575, 733	573, 879	571, 688	570, 002	567, 811	566, 126	563, 935	562, 081	559, 721	
			受託工事収益		7, 209	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			その他営業収益		23, 291	18, 433	20, 427	19, 430	19, 430	19, 430	19, 430	19, 430	19, 430	19, 430	19, 430	19, 430	19, 430	19, 430	19, 430
		営業外収益	他会計補助金		3, 757	11, 571	83, 623	48, 103	49, 095	49, 462	48, 154	48, 888	47, 086	47, 730	48, 373	47, 270	43, 606	43, 605	
			長期前受金戻入	(既 存)	25, 223	29, 148	29, 454	28, 953	28, 505	28, 227	27, 846	27, 727	27, 664	27, 644	27, 644	27, 644	27, 644	27, 598	
				(新 規)				612	1, 112	2, 548	3, 932	4, 319	4, 875	5, 701	6, 140	6, 140	6, 140	6, 140	
			計	25, 223	29, 148	29, 454	29, 565	29, 617	30, 775	31, 778	32, 046	32, 539	33, 345	33, 784	33, 784	33, 784	33, 784	33, 738	
		その他営業外収益 (受取利息・雑収益)		853	2, 670	5, 015	3, 843	3, 843	3, 843	3, 843	3, 843	3, 843	3, 843	3, 843	3, 843	3, 843	3, 843	3, 843	
		特別利益	過年度損益修正益		26	87	13	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
		水道事業収益合計					562, 828	590, 295	659, 841	680, 768	679, 959	679, 293	677, 134	675, 945	672, 950	672, 209	671, 606	668, 312	662, 794
	支出	営業費用	総係費（人件費）		83, 269	96, 380	95, 669	96, 025	96, 025	96, 025	96, 025	96, 025	96, 025	96, 025	96, 025	96, 025	96, 025	96, 025	96, 025
			委託費		12, 671	20, 871	16, 122	24, 497	24, 497	24, 497	24, 497	24, 497	24, 497	24, 497	24, 497	24, 497	24, 497	24, 497	24, 497
			受託工事費		9, 194	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			動力費		28, 795	32, 668	32, 407	32, 538	32, 538	32, 538	32, 538	32, 538	32, 538	32, 538	32, 538	32, 538	32, 538	32, 538	32, 538
			薬品費		539	1, 149	1, 220	1, 185	1, 185	1, 185	1, 185	1, 185	1, 185	1, 185	1, 185	1, 185	1, 185	1, 185	1, 185
			修繕費		31, 363	53, 726	47, 789	50, 758	51, 519	52, 292	53, 076	53, 872	54, 680	55, 500	56, 333	57, 178	58, 036	58, 907	
			材料費		3, 324	5, 090	3, 438	4, 264	4, 264	4, 264	4, 264	4, 264	4, 264	4, 264	4, 264	4, 264	4, 264	4, 264	4, 264
			その他		3, 596	946	7, 337	4, 142	4, 142	4, 142	4, 142	4, 142	4, 142	4, 142	4, 142	4, 142	4, 142	4, 142	4, 142
			減価償却費	(既存)	259, 877	281, 468	281, 372	288, 328	288, 573	287, 102	285, 887	286, 702	284, 884	285, 184	286, 866	294, 053	297, 326	299, 772	
				(新規)				3, 809	14, 357	29, 338	41, 229	50, 097	59, 425	66, 749	75, 648	82, 572	89, 107	95, 725	
				計	259, 877	281, 468	281, 372	292, 137	302, 930	316, 440	327, 116	336, 799	344, 309	351, 933	362, 514	376, 625	386, 433	395, 497	
			資産減耗費		256	110	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		営業外費用	支払利息	(旧債)	68, 781	72, 155	67, 187	61, 804	56, 389	51, 086	46, 348	42, 036	37, 949	33, 885	30, 117	26, 577	23, 274	20, 152	
				(新債)				424	1, 718	3, 092	4, 354	5, 228	6, 256	7, 316	8, 233	9, 043	9, 891	10, 335	
				計	68, 781	72, 155	67, 187	62, 228	58, 107	54, 178	50, 702	47, 264	44, 205	41, 201	38, 350	35, 620	33, 165	30, 487	
			雑支出		66	1	122	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		特別利益	過年度損益修正益		673	1, 038	905	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		水道事業費用合計					502, 404	565, 602	553, 591	567, 771	575, 204	585, 559	593, 543	600, 584	605, 843	611, 282	619, 845	632, 072	640, 282
	損益(収入－支出)					60, 424	24, 693	106, 250	112, 997	104, 755	93, 734	83, 591	75, 361	67, 107	60, 927	51, 761	36, 240	22, 512	12, 847
	資本的収支（税込み）	収入	企業債			205, 300	150, 000	146, 600	84, 800	258, 700	267, 700	252, 400	174, 800	206, 400	217, 500	199, 200	187, 400	204, 300	130, 300
他会計出資補助金				9, 205	31, 783	36, 787	38, 372	39, 536	38, 924	40, 224	38, 981	40, 228	41, 485	41, 005	37, 951	38, 520	36, 782		
国庫（県）補助金				47, 400	41, 360	60, 593	27, 200	22, 200	63, 800	61, 500	17, 200	24, 700	36, 700	19, 500	0	0	0		
工事負担金				5, 391	16, 450	55, 543	13, 900	13, 900	13, 900	13, 900	13, 900	13, 900	13, 900	13, 900	13, 900	13, 900	13, 900		
計				267, 295	239, 593	299, 523	164, 272	334, 336	384, 324	368, 024	244, 881	285, 228	309, 585	273, 605	239, 251	256, 720	180, 982		
支出		事業費			348, 946	290, 991	375, 665	133, 140	345, 534	398, 389	377, 022	235, 709	282, 762	308, 514	268, 473	234, 204	255, 350	162, 814	
		企業債償還金	(旧 債)	225, 746	272, 844	279, 514	283, 670	284, 301	283, 774	276, 795	276, 961	286, 220	278, 649	273, 153	265, 541	261, 562	263, 807		
			(新 債)				0	0	0	0	0	3, 192	12, 948	23, 365	32, 983	39, 729	47, 699		
			計	225, 746	272, 844	279, 514	283, 670	284, 301	283, 774	276, 795	276, 961	289, 412	291, 597	296, 518	298, 524	301, 291	311, 506		
		その他			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計			574, 692	563, 834	655, 179	416, 810	629, 835	682, 163	653, 817	512, 670	572, 174	600, 111	564, 991	532, 728	556, 641	474, 320			
資本的収支差引					-307, 396	-324, 242	-355, 656	-252, 538	-295, 499	-297, 839	-285, 793	-267, 789	-286, 946	-290, 526	-291, 386	-293, 477	-299, 921	-293, 338	
資金収支	損益勘定留保資金①(当年度純利益含む)				295, 334	277, 123	358, 191	375, 569	378, 067	379, 399	378, 929	380, 114	378, 877	379, 514	380, 490	379, 081	375, 160	374, 606	
	資本的収支不足額②				-307, 396	-324, 242	-355, 656	-252, 538	-295, 499	-297, 839	-285, 793	-267, 789	-286, 946	-290, 526	-291, 386	-293, 477	-299, 921	-293, 338	
	差し引き①+②				-12, 062	-47, 119	2, 535	123, 031	82, 568	81, 560	93, 136	112, 325	91, 931	88, 988	89, 104	85, 604	75, 239	81, 268	
	資金残高				259, 232	205, 709	223, 823	346, 854	429, 423	510, 983	604, 119	716, 443	808, 374	897, 362	986, 467	1, 072, 070	1, 147, 310	1, 228, 578	
企業債残高					4, 222, 453	4, 666, 650	4, 533, 735	4, 334, 865	4, 309, 264	4, 293, 190	4, 268, 795	4, 166, 634	4, 083, 622	4, 009, 525	3, 912, 207	3, 801, 083	3, 704, 092	3, 522, 886	
有収水量 1 m³当たり		供給単価			148. 80	153. 45	146. 81	168. 54	168. 54	168. 54	168. 54	168. 54	168. 54	168. 54	168. 54	168. 54	168. 54	168. 54	
		給水原価			141. 11	155. 49	147. 35	156. 46	159. 11	162. 41	164. 98	167. 61	169. 52	171. 55	174. 47	178. 81	181. 86	184. 82	
	資金残高	流動資産			675, 678	554, 490	610, 674	給水原価＞供給単価 に逆転											
		流動負債			404, 279	337, 542	373, 226												
		引当金			5, 780	5, 356	5, 257												
		貯蔵品			6, 386	5, 883	8, 368												

給水原価＞供給単価
に逆転